

### ヴェスタ(カタクチワシ)漁業

北部チリ沖沿岸水帯の高プランクトン生産は南太平洋の高気圧性(反時計廻り)循環系の偏南風によつて起された湧昇に依存する。この水域では湧昇した生産力に富む水の帯は比較的狭く岸から5~80マイル沖までの間に拡張しており、大かた周年高塩分で高温な外洋性亜熱帯水と低塩分低温な沿岸湧昇水(水温躍層付近の塩分極小からの亜南極性次層水と、南向流をなす表層下のペルー・チリ海流又は Gumther 海流の赤道水との混合水から成る顕著な湖境がある。

気象系の季節的变化が湧昇状態に反映し、偏南風の弱いときは亜熱帯水が岸へ接近し、それが時々そこに存在するカタクチワシ群を極く狭いゾーンに濃縮さすようなことになる。しかし、この水が接岸して自分で冷水の上にかぶせるとき、カタクチワシは旋網漁業でとれない。何故なら魚群は暖かい表層水の下に大へん散らばるからである。海岸と50~80マイル沖合との間の南向する表層反流は一年の大部分現われるように見えるが、夏秋には比較的はつきり目立ち、他の季節よりもつと沖合になる。この海流はその渦流とともに卵・稚仔の輸送と成熟カタクチワシの回遊にも重要であるらしい。

カタクチワシ漁況が湧昇状態の変化を極めて密接に反映するというのは、カタクチワシの分布が狭い豊プランクトン水帯で制限されているからである。そして最好漁は通常15°~18°Cの水域に起る。赤外線温度計をつけた飛行機で観測したような表面海水温度の分布の知識はカタクチワシ群の在り場をきめるのに助けになる。これら資料の平均は湧昇水域を看視するのに用いられる。最好漁は一般に春から秋にかけて起り、冬季(6月~8月)は湧昇の乏しいのと合致してぐんと減る。

風の条件の簡単な指標としてジュアン・フェルナンデス島とヴァルパライソ間の気圧差が用いられ、正の値は偏北風を示す。気圧差の月平均は、カタクチワシ漁の単位努力当り漁獲曲線に似た、はつきりした季節的傾向を示し、むしろ密接な相互関係を示唆する。これらデータの年平均をプロットしたものはそれらの間の強い相関を示し、又1958から1961年にかけての上向傾向、1961年から1964年にかけての下向傾向を示す。

(宇田 道隆)

## 14 国際水産海洋ニュース

出所: International Marine Science IV, 4, 1966.

- 1) 国際漁業企画 国連開発計画統合審議会第2回総会では、コロンビア国海洋漁業開発、ヴェネズエラ国水産研究開発、アイボリー・コースト浮魚漁業資源調査開発の企画を承認した。F. A. O. はこれら企画の執行機関となる。アイボリーコースト企画は西阿沿海多数国でなされるべき各国特別資金援助企画の一部となる。同様漁業企画は1966年1月セネガル、シエラ・レオンヌ、コンゴ(ブラザビル)にも承認された。これらすべての企画の目的は沿岸漁業資源(特にイワシ類)開発を、調査研究、試験漁業と訓練を通じて助けることである。1965

年1月発足のガーナの特別資金援助水産研究所、ナイゼリア西部、中西部の水産調査もこの線に沿っている。セネガル〜コンゴ河口西阿水域の浮魚資源をチャーター研究船で地域漁業調査中である。

2) (a) 1967年6月12日からFAO主催で13日間メキシコ国メキシコシティで世界小エビ大エビ生物学及び増殖世界科学会議が開かれる。

(b) 南西大西洋漁業諮問委員会(CARPAS)第3回会議をウルグワイ国モンテヴィデオで1966年4月25〜29日開催。(アルゼンチン、ブラジル、ウルグワイ)にオブザーバー米、ノルウェー、ユネスコ、FAOが参加した。

水産統計生物サンプリングの標準化。

環境研究は海洋漁業資源研究関係の海洋学とプランクトン研究。内水面漁業開発と養魚の強化、ヘイク類の世界会議等が勧告されている。

(c) 大西洋鮪保存全権会議、FAO主催、1966年5月2〜14日、リオデジャネイロ。

17ヶ国代表と3国オブザーバーが、大西洋と隣接域のマグロ類保存条約が承認され、新しい国際理事会がこのためできることになった。7ヶ国が承認批准するときに発足する。

(d) ACMRR(FAO)に「栄養力学」(Trophodynamics)作業委員会が1964年で、1968年秋ごろICES年会(コペンハーゲン)に結びつけてシンポジウムをFAO, ICNAF, ICES, IOC, IBPの共催でひらく予定。4つの重要課題(どのようにして食物摂取と自然生物資源量を計測し、どのようにして栄養水準間のエネルギー移譲の効率程度をきめるか)を調査する。食餌―捕食者関係に有意義とされる諸因子の測定定義も吟味する。色々の問題(無生有機物の再使用; 底棲生態学; 生存能力の現場指標と自然生物資源の生産ポテンシャル; 魚群への食餌制限; 色々な生物種による生活史上の各期の栄養水準の効率推定に及ぼす影響、海産動物の栄養力と生物の大きさの意義の研究)がとう上げられた。

色々な因子を入れて多少とも数学的に扱った栄養力学を目指している。

## 15 オーストラリアのミナミマグロ標識

出所: CSIRO Fisheries and Oceanography 1965-1966 Annual Report

ミナミマグロ(Southern bluefin tuna)の標識放流は活発に行なわれている。

第1表 ミナミマグロの標識状況

東 部 豪 州			南 部 豪 州			西 部 豪 州			これまで合計
1959~	放流 3079尾	1961~	放流 5898尾	1962~	放流 17,852尾	26,830尾放流			
65年	再捕 408尾	66年	再捕 179尾	66年	再捕 613尾	捕(内36尾は			
						タスマン海操業			
						日本漁船報告)			

中部クインズランド沖合300哩以内で双発機による魚探でキワダマグロ群を1965年8月〜11月捜索した。マグロ等釣船を伴う群浮上せず。深層遊泳生物をたべていた魚を陸棚縁や孤立礁付近で若干とつた。さらにタスマンヤ水域で1月〜6月双発機に赤外線放射温度計をつけて空から水温分布をはかりながら調査、距岸200マイル、なお3月西部ヴィクトリア州水域も距岸50哩調査した。この方面にはカツオ群も相当量発見、カジキ大群も見られた。1966年3月5日アジ群(*Trachurus declivis*)10万トン推定量をSchouten島とKing島の間に見る。